



啓明小だより

中野区立啓明小学校
校長 中村明子
〒165-0034 東京都中野区大和町1-18-1
電話 03-3330-2325
FAX 03-3330-2326
HP <http://nk-keimei-e.la.coocan.jp>
No. 552号 7月号 発行 令和2年6月30日

「見守る人」

副校長 山田 研二

学校が再開し、ひと月が経ちました。朝、子供たちの元気な声は、やはり学校のパワーの源となります。

さて、学校近くで子供たちが安全な登下校ができるよう見守ってくださる方々がいます。子供たちに「おはようございます。元気で行ってらっしゃい。」「気を付けて、さようなら。」と一声かけてくれます。お話を聞いてみると、学区にお住まいで、もう5、6年も見守りを続けていて、「子供たちの声を聞くと、元気をもらいます。」とおっしゃっていました。また、「この時間にはこの子が通りますね。」など子供たちのこともよくご存じでした。そして、つい最近、やはり学校の近隣にお住まいのご夫婦の方が、子供たちの安全の見守りを始めました。以前からやっていた方から、見守る場所や時間帯について教えてもらい、初日には少し早めに見守る場所に立って、子供たちが登校してくるのをずっと待っている姿が印象的でした。啓明小の環境整備をしてくださる武翔総合管理の方々も見守っていただいております。皆さん、雨の日も風の強い日もそしてこれからの季節のように暑い日も、啓明小の子供たちのために頑張ってください、本当に頭が下がります。

見守りの方々の様子を見ていたら、ふと、自分が高校時代に山に登っていたときの出来事を思い出しました。高校1年生のときに単独登山をしたことがありました。自分には体力があるから大丈夫だと過信し、少し行程が長い登山計画をしていました。登山途中の山小屋に着いたときには、だいぶ日が暮れていました。自分は、その山小屋で小休止し、そこの番人さんと少し会話を交わしたあと、目的地であるテント場に向かって、少し急ぎ足で登山を続けました。しばらくすると、後ろから自分を照らし、追ってくる光に気付きました。一瞬、何の光だろう？と不思議に思っていたら、何と山小屋の番人さんが照らしていた光だったのです。日暮れ時に、高校生一人の山歩きを心配に思い、そっと後方からライトを照らし、私の安全を確かめてくれていたのです。実は、山に関する本を読んだ中で、山小屋の番人さんが登山者の安全を見守るいろいろなエピソードがあることを知り、自分の身にも起きたと実感したことを覚えています。そして今でも感謝の気持ちになります。

啓明小の子供たちには、学校が再開し、自分が元気に学校に行けるのは、家族の支えはもちろんのこと、自分たちの住む地域に安全を見守ってくれる人がいるからということを感じてほしいです。その方々への感謝の気持ちをあらためて心に留めて、その気持ちを毎日の元気なあいさつで表してほしいと願っています。

これから暑い日が多くなります。そして来月の7日まで学校生活が延長しました。子供たちがこれからも元気に学校生活を送れるよう、保護者、地域の皆様、今後ともよろしく願います。

7月の生活目標

「自分のからだを守ろう」

生活指導部 渡邊 聡介

7月は気温が上がり暑さがさらに厳しくなります。普段以上に食事や睡眠等の生活習慣を整えるよう注意し、体調管理をする必要があります。また、マスクをしていることでたくさん汗をかくため、熱中症にならないよう、こまめに水分補給をとるように学校でも声をかけています。

感染症の予防をすることも大切です。朝、教室に入る前、図書館に行く前、給食準備の前、体育の授業や休み時間の後など、児童はこまめに手洗い・うがいをするように指導しています。毎日気持ちよく学校生活を送れるように、ご家庭でもご協力ください。